

ヨハネによる福音書の構造分析

—七つの「しるし」にみられる裏返し構造—

Structural analysis of the Gospel of John
—Contrast structure in seven "signs"—大喜多 紀明¹¹滋賀民俗学会Noriaki Ohgita¹¹Folklore Society of Shiga

キーワード：ヨハネによる福音書，裏返し構造，七つのしるし

Key words : Gospel of John, Contrast structure, Seven "signs"

抄録

ヨハネによる福音書には七つの「しるし」と呼ばれる七つの奇跡物語が配置されている。このことから当該福音書は「しるし福音書」と呼ばれてきた。七つの「しるし」は独立した小さな物語群であり，連続して配置されているわけではない。本稿では，かかる七つの「しるし」の構造的関連性を，裏返し構造の観点から検証した。

1. はじめに

新約聖書には四巻の福音書（マタイによる福音書，マルコによる福音書，ルカによる福音書，ヨハネによる福音書）が収録されている。本稿で扱うヨハネによる福音書はそのなかの一つである。ヨハネによる福音書以外の三巻は，比較的内容が類似していることから，共観福音書⁽¹⁾と呼ばれている。逆に言えば，ヨハネによる福音書は他の三巻とは異なる「観」に基づき編成されており，内容も他の巻と異なっている点が多い⁽²⁾。

このヨハネによる福音書が他の福音書と異なる点の一つは，七つの「しるし」物語が描かれている点であり，この「しるし」の描写が当該巻の特徴ともいえる。東は，「しるし」について，次のように述べた⁽³⁾。

ヨハネ福音書1-12章のイエスの公の活動を報告する部分には，「しるし」(σημείον)とテキストの中で呼ばれる奇跡的出来事を中心とする複数のエピソードが含まれる。現在広く支持されているのは7つのしるしを数える立場で，それらは，1) カナの婚礼(2:1-11)，2) 王の役人の息子の癒し(4:46-54)，3) 38年間病気で

苦しんでいる人の癒し(5:1-18)，4) 供食(6:1-15)，5) 水上歩行(6:16-21)，6) 盲人の癒し(9:1-41)，7) ラザロの復活(11:1-12:11)である。

そのうえで，「しるし」の神学的な意味を東は以下のように述べた。

結論から先に言うならば，ヨハネ福音書4-6章において，しるし物語と講話とは有機的に結びついて，復活という主題が通底するひとつの物語を形成する。まず，奇跡的出来事を描くしるし物語は，読者が，復活の諸様相を身体的，具体的，感覚的な出来事として，物語世界の中で先取的に経験することを可能にする。続く講話は，この復活を未来に起こることとして予告すると共に，読者にこの主題の理解を深めさせ，決断を促す。最後に，しるしの神学的意義とは，キリストであるイエスがもたらす救済の諸様相を，その物質的，身体的な側面のうちに具体的に示すことにある。

つまり，東の説によれば，当該福音書における「し

るし」は、神学的には、イエスによる救済をより身体的・具体的・感覚的に読者に理解させる役割を担当している。本稿は、神学的な視点から論じることを目的としていない。だが、当該福音書において「しるし」が重要な役割を演じているという点においては同意するものである。

本稿では、七つの「しるし」が当該福音書の特徴であるという立場から、各「しるし」の特徴および、各「しるし」の配列構造を検討したい。かかる検討は、当該福音書の特徴の理解に資するものと思われる。なお、本稿における分析は、裏返し構造に基づいておこなうことにする。

2. 七つの「しるし」

七つの「しるし」とは、以下の七か所(①～⑦⁽⁴⁾)に配置された、イエスがおこなったとされる七つの奇跡物語のことである。なおそれぞれの「しるし」の範囲については、上述の東の論文によるものを採用することにする。

- ①第一の「しるし」: 2章1節～11節
- ②第二の「しるし」: 4章46節～54節
- ③第三の「しるし」: 5章1節～18節
- ④第四の「しるし」: 6章1節～15節
- ⑤第五の「しるし」: 6章16節～21節
- ⑥第六の「しるし」: 9章1節～41節
- ⑦第七の「しるし」: 11章1節～12章11節

以下、①～⑦における筆者によるあらすじをそれぞれ示す。

①のあらすじ

イエスと弟子たちは、ガリラヤのカナでおこなわれた婚礼に招待された。その際、ぶどう酒がなくなったので、イエスの母はイエスに、ぶどう酒がなくなったことを伝えた。それに対し、イエスは母に、「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」と応じるも、僕たちに対し、「かめに水をいっぱい入れなさい」と命じ、料理がしらの所へもって行かせた。するとその水がぶどう酒になっていた。

②のあらすじ

イエスがガリラヤのカナに滞在中、その噂を聞いた

た役人がカペナウムからやってきた。役人には病気の息子がいた。役人はイエスに対し、カペナウムに行き、病気の息子を治してほしいと告げた。イエスは、「お帰りなさい。あなたの息子は助かるのだ」と役人に告げ、彼はその言葉を信じてカペナウムに帰った。すると帰路、息子が治ったことを僕から知らされた。

③のあらすじ

ユダヤ人の祭のためにイエスはエルサレムに行った。ベテスダと呼ばれる池のそばにある五つの廊に、38年間病気で悩んでいる人がいた。イエスは横になっているその病人に「治りたいのか」と声をかけ、「起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい」と命じた。するとその病人はすぐに癒され、床をとりあげて歩いて行った。

④のあらすじ

イエスと弟子たちはガリラヤ湖畔の山に登った。そこに群衆が集まって来た。イエスは群衆に食事を与えようとしたが、十分な食事がなかった。アンデレが「ここに、大麦のパン5つと、魚2ひきとを持っている子どもがいます。しかし、こんなに大勢の人では、それが何になりましょう」とイエスに述べると、イエスは群衆(男の数は5000人)を座らせ、そのパンと魚を配給した。食事は群衆が望むだけ分け与えられた。余ったパンくずを集めると、パンくずは、12のかごにいっぱいになった。

⑤のあらすじ

夕方、イエスの弟子たちは船に乗り、対岸のカペナウムに行きかけていたのだが、イエスはまだ来ていなかった。すでに暗くなっており、強い風が吹き、湖は荒れはじめていた。イエスは湖上を歩行し、船に近づいてきた。弟子たちはイエスを船に迎えようとした。するとすぐに、船は対岸に着いた。

⑥のあらすじ

道を歩いていると、イエスは生まれつきの盲人に会った。イエスはその盲人の目に泥を塗り、シロアムの池に行き、洗うように命じた。するとその盲人の目が見えるようになった。人々はこの男をパリサイ人の所へ連れて行った。パリサイ人たち

はこの男の目を治した人が誰なのかを尋問したが、男はわからないと答えた。男の両親にも尋問したが、両親は息子に聞いてほしいと言った。パリサイ人たちが解放された後、目を見えるようにした人物がイエスであったことを男は知った。

⑦のあらすじ

ベタニヤに住むマルタとマリヤは、彼女たちの兄弟であるラザロが病気であることをイエスに知らせた。イエスはラザロを愛していたが、ラザロの所にすぐには向かわなかった。イエスが行くと、ラザロはすでに死んでおり、墓に4日間入れられていた。マリヤはイエスの足もとにひれ伏して「主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう」と告げた。マリヤや人々が泣いている様子を見たイエスは感動し、涙を流した。イエスはラザロの墓の石を取り除けるように命令し、ラザロに出てくるように言った。するとラザロは生き返り、墓から出てきた。その後、過越祭の6日前、ベタニヤにて、イエスは夕食の席に着いた。そこにはラザロもいた。祭司長たちは、イエスとともにラザロも殺すことを相談した。

3. 裏返し構造

従来の物語の構造分析法には、例えばウラジーミル・プロップによる、31個の「機能」に基づくもの^⑥や、クロード・レヴィ＝ストロースによる、二項対立の組み合わせに基づくもの^⑦などがある。本稿では、ルーマニアのフォークロリストであるミハイ・ポップが昔話「兵士としての少女」にみいだした、物語の前半と後半が裏返しの構造^⑧を裏返し構造と呼び、これをあてはめることによる構造分析をおこなう。

ポップがみいだした構造は以下の通りである。

I. 欠如:

II. 欺瞞:

III. 試練:

IV. 暴力:

暴力の除去

試練の除去

欺瞞の除去

欠如の除去

ポップによれば、「兵士としての少女」の前半は、順番に、「欠如」、「欺瞞」、「試練」、「暴力」をテーマとしている。それに対し、物語の後半のテーマは、前半とは逆の順序で出現し、かつ前半のテーマを「除去」する意味のものとなる。ポップの知見を受けた大林は、日本における典型的な異郷訪問譚にも、各要素のテーマ自体は異なるものの、同様の構造がみとめられるものがあることをみいだした^⑧。そのうえで、下記のAとBの双方の特徴を持つ構造を「裏返し構造」と呼んだ。

A: 物語の「前半」部分に配置された要素に対して、物語の「後半」に相当する要素が、「前半」の「否定」・「対立」もしくは「対照」としての関連性を持って出現する^⑨。

B: 物語の「後半」に配置された要素は、「前半」の対応する要素の配列順序とは逆の順番で出現する^⑩。

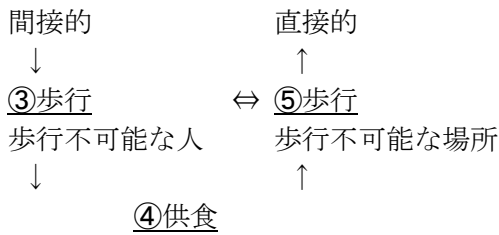
本稿においても、この構造を裏返し構造と呼ぶことにする。

ただし、かかる裏返し構造は、あくまでも単一の物語にみいだされる構造である。それに対し、本稿では、単一の物語の構造を分析するのではない。七つの「しるし」はそれぞれが独立した小さな物語であるといえる。また、単一の大きな物語（ヨハネによる福音書）のなかに収納されており、②と③、④と⑤は連続しているのだが、それ以外は連続していない。つまり、大きな物語に収納された、連続しない複数の小さな物語を拾い集めたうえで、相互の関連性を分析するものである。こうした小さな物語群の関連性を裏返し構造の観点から分析した先行研究はない。

4. 構造分析

本節では、2節における①～⑦のあらすじに基づき、3節における裏返し構造をあてはめた、筆者による図式を示す。

①催事と復活	⇔	⑦催事と復活
結婚：無関心		葬儀：同情
象徴的生命		現実的生命
↓		↑
②息子の治癒	⇔	⑥息子の治癒
役人の息子		盲目の息子



以下、上述の図式に関する説明をする。図式では、①と⑦、②と⑥、③と⑤が、それぞれ対応関係にある。また、①と⑦のテーマは「催事と復活」であり、②と⑥のテーマは「息子の治癒」であり、③と⑤のテーマは「歩行」である。一方、④には対応する要素は存在せず、テーマは「供食」である。

①にはカナにおける「結婚」の様子が描かれている。それに対し、⑦にはラザロの「死」が描かれている。ここでの「結婚」と「死」は、ともに人生における「催事」をテーマとしているが、一般的に、「結婚」は慶事であり、「死」は弔事であり、双方は対照的である。続いて、それに参席したイエスの態度を比較してみる。①におけるイエスの態度は、「結婚」の場でありながら、母に対し、「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」と述べた。この言葉をイエスが述べた理由は描かれていないが、素直に読めば、イエスはこの「結婚」の場に積極的に参加したようには思えず、むしろ「無関心」な態度であるといえる⁽¹¹⁾。一方、⑦には、イエスは感動し涙を流す様子が描かれており「同情」的な態度であるといえる。つまり、イエスの態度は、「無関心」と「同情」という対照的なものである。

	催事	イエスの態度
①	結婚	無関心
⑦	死	同情

さらに、①には水がぶどう酒になる奇跡が描かれている。それに対し⑦には、死んだラザロが生き返る奇跡が描かれている。ここで、①において水から変化したぶどう酒は、飲むことにより興奮がもたらされる。つまり、かかる変化は「象徴的生命」の「復活」を描いているといえる。一方、⑦では、死んだラザロが生き返るといふ「現実的生

命」の「復活」が描かれている。かかる点も、象徴と現実という対照的なものであるといえる。

	復活
①	象徴的生命
⑦	現実的生命

②と⑥についてである。②では、イエスは「役人の息子」を治癒させた。この役人という立場は比較的社会的には恵まれているといえ、その点は、息子も同様であるといえる。なお、治癒の際は、イエスは直接その息子と対面することなく、親である役人とのみ対面した。また、その対面はイエスからではなく息子の親の願いに基づくものである。一方、⑥では、イエスは生まれながら「盲目の息子」を治癒させた。この息子は社会的には恵まれた立場とはいえない。なお、治癒は息子本人に直接対面することによりおこなわれ、その対面はイエスが声をかけたことをきっかけとしている。かかる全ては対照的である。

	息子の社会的立場	対面	経緯
②	高い	間接的	息子側
⑥	低い	直接的	イエス

③と⑤についてである。③では、イエスは、38年間病気で悩んでいる人を癒すことにより、通常に歩くことができるようにした。それに対し、⑤では、イエスは、通常歩くことができない水上を歩いてみせた。つまり、③では歩けない人が歩けるようになり、⑤では歩けない所を歩いたのであり、双方は同じ「歩行」という行為であるのだが対照的である。

	歩行	場所
③	不可能な人	歩行可能(道)
⑤	可能な人	歩行不可能(水上)

以上を、特徴Aおよび特徴Bと照らし合わせてみる。上述の①と⑦、②と⑥、③と⑤が対応しており、かつ、それぞれが対照的な関係性である。この点は特徴Aとあてはまる。また、前半要素は①→②→③という順序で配列している。それに対し、後半要素は⑤→⑥→⑦と配列している。つまり前半と後半の配列は逆転しており、この点は、

特徴 B にあてはまる。以上より、①～⑦は特徴 A と特徴 B の双方に合致するため裏返し構造である。

5. おわりに

本稿では、ヨハネによる福音書の七つの「しるし」を、裏返し構造をあてはめる観点から分析したところ、当該「しるし」群は裏返し構造に基づく構成であることがわかった。つまり、七つの「しるし」は、ヨハネによる福音書に収納された、連続しない複数の小さな物語であるが、これらは裏返し構造の観点から相互に関連性を持っていることがわかった。本稿でみいだされた構造が、当該福音書全体に対してどのように位置づけられるかの検討は今度おこなう予定である。

注

- (1)伊藤明生. 二資料説は共観福音書問題を解決したか. 基督神学. 1990, 5, p.14-33.
- (2)秋山学. 古典古代学と聖書学: 『ヨハネ福音書』と共観福音書. 筑波大学地域研究. 2013, 34, p.65-86.
- (3)東よしみ. ヨハネ福音書 4-6 章における「しるし」と講話. 神学研究. 2016, 63, p.41-55.
- (4)本稿では、第一～第七の「しるし」を、それぞれ「①」～「⑦」と呼ぶ.
- (5)例えば, ウラジーミル・プロップ. 北岡誠司, 福田美智代 (訳). 昔話の形態学. 水声社, 1987.
- (6)例えば, クロード・レヴィ＝ストロース. 田島節夫 (訳). 神話の構造. みすず書房, 1972.
- (7)かかる構造の初出は『Folclor Literar』(1967 年出版)中の「Metode noi in cercetarea structurii basmelor」である. 筆者はこれ入手できなかったため、代わりとして、当該箇所が再掲された論文 Pop, Mihai. “Coordonate structurale ale folclorului literar”. Folclor literar românesc. 1990, p. 77-92.を参照した.
- (8)大林太良. 異郷訪問譚の構造. 口承文芸研究. 1979, (2), p.1-9.
- (9)本稿ではこれを「特徴 A」と呼ぶ.
- (10)本稿ではこれを「特徴 B」と呼ぶ.
- (11)一般的に、キリスト教会の場合、このカナの婚礼におけるイエスの発言に神学的意味をみいだそうとしているのだが、発言自体は「冷たい態度」であると考えられることが多い. 例えば、鎌倉雪ノ下教会の上野峻一牧師は 2017 年 11 月 12 日の説教で次のように述べている。「誰しものが、何とも、冷たい態度に感じてしまいます. この事件と私には〔原文ママ〕関りが無い、自分は何もしないぞということではありません.」(日本キリスト教団 鎌倉雪ノ下教会. “2017 年 11 月 12 日 主日礼拝説教”. 日本キリスト教団 鎌倉雪ノ下教会. <http://www.yukinoshita.or.jp/info/archives/3106>, (参照 2019-11-10).) 上野の言葉を借りれば、イエスの発言は、「誰しものが、何とも、冷たい態度に感じ」るものである.

(受付日: 2019 年 11 月 11 日, 受理日: 2019 年 11 月 21 日)

大喜多 紀明（おおぎた のりあき）

東京工業大学大学院総合理工学研究科電子化学専攻修士課程修了。
専門は民俗学。

主な論文：アイヌ女性叙事詩「スズメの酒盛り」についての考察：交差対句と心意。アジア民族文化研究。2012, (11), p.181-213.

聖書「創世記」冒頭の 5 つの物語の構造：異郷訪問譚によらない裏返し構造の事例。北海道言語文化研究。2017, (15), p.195-216.